

繪本八犬傳

全隆港
堂梓

特59

883

特59-883



1200500928473

特59
883

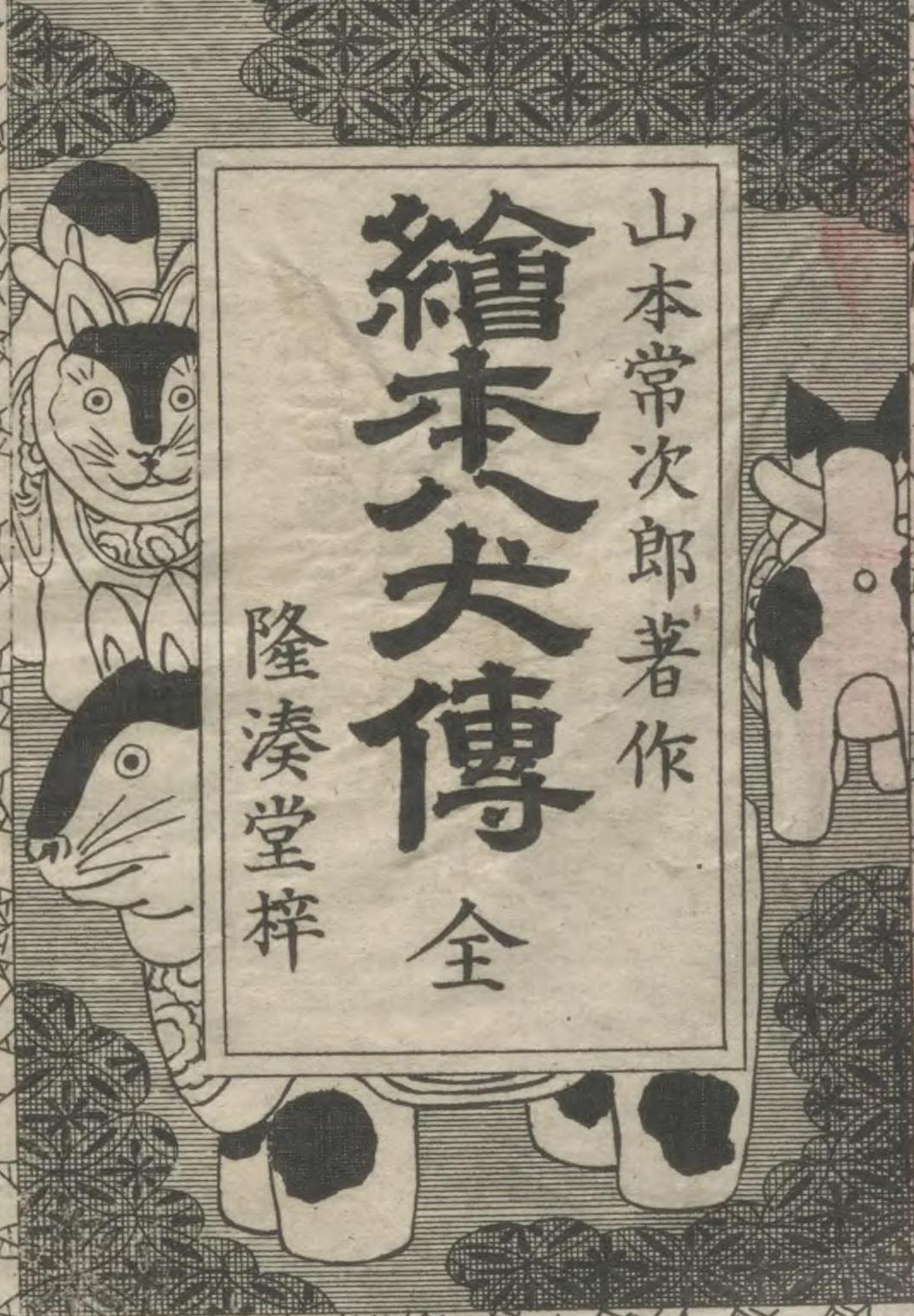


繪本

繪本犬傳 全

山本常次郎著作

隆湊堂梓



No 15658

受 報 慝 利
賜 德 勢



六
專

六
一

自術凌勇
有豈剛

八現飼犬

乃信塚犬



犬塚信乃





義実

茲小説里見氏の安房の國主として
鎌倉勢と戦ひ敗軍の後安房を
渡り或と死飼犬ハツ房
とを日頃めぐる。

ハツ房
豊島家一族の娘を
とて其
飛散
の井
野丹
藏の娘
番作妻
とて手
塚といふ
もの辨天へ日
参りて帰る途中



伏姫

昔は木
れは非なく
伏姫を遣したり
其後犬と共富山
お在し小后伏姫へ金
鞠大輔の玉先おあへる命を
落せしとど其時伏姫の體より
空気が立登りハツの玉空気が共小口

ハツ房

豊島家一族の娘を

伏姫の
拜し夫を
妊と男子を
産とれん
犬塚信乃と
て犬
士の一人
農夫
墓六の
娘濱路





伏姫

不幸なと農夫の養女
とあり犬塚信乃
を誓おせざる
養母龜篋らまう
らひしも其実村雨
丸の刀を奪鎌倉

殿へ献せんとき
又此家

の小者
額藏と

のち
の若あり右ふ夫川社社みとハ

亦これあり又信乃
ハ名カ



神童

△献せん
用意する
鎌倉さして8

○島本村
雨の太刀をまらう
られとい夢おも知れ古
我の御所へ赴き
○ 出立しり
去程不信乃の
墓六らら

ハカ 依

成氏朝臣奉りし処其太刀の
贖物あるとゆはしのりた
信乃ハ言とく

先づさへんと

実義



大輔

終つ小捕手と
向られ芳流閣の家
根の上小追手と
さんぐ小切りもちら
せし目覚一くりける
働きあり此とれ一人
の勇士進と出い
信乃ハ望む

輝文

伏姫



八 專

七

ハハハ
ナカ
傳作

敵^{てき}ありと戦^{いくさ}ひ遂^ひに引^ひ組^{くみ}ん
坂^{さか}東^{とう}川^{がわ}小^せ落^{らく}互^{たがひ}ひ不^ふ気^き絶^{ぜつ}せし

とるや文^{ぶん}五^ご兵^{べい}工^{こう}小^せ助^{すけ}

けられ相手^{あいて}ハ

天^{てん}飼^{かい}現^{げん}ハ

と名の^なり兄弟^{あにいもうと}の

約^{やく}とむわり文^{ぶん}五^ご兵^{べい}工^{こう}の

忤^せ小^せ文^{ぶん}吾^{われ}も義^ぎ兄^{あにいもうと}

弟^{あにいもうと}の一人^{ひとり}なり



米田作



雨丸^{あめまる}の太刀^{たち}を賣^うんと偽^{いつはり}り定^{さだ}正^{まさ}と

却^{かえ}つて犬^{いぬ}山^{やま}道^{みち}節^{せつ}
圓^{まる}塚^{つか}山^{やま}を立^た退^{たい}村^{むら}

八
ニ
傳

ハハカハ
ハハカハ
ハハカハ
ハハカハ



ツギキ 討んとせりし巨田助友
謀計小陥り数多の敵と
追散し辛ドて圃と追れ
て田文の地藏
堂子刃心ふ折ら
人の若者入来り
と道節つてきと
おもひ抜み
そればこそ
も抜
合せ火花
とちりし戦ひ

信乃



何れの方らぬ勇士と勇士
勝負はるくつりのせり
れ小成夫より五大士
落合しが白井の大軍
道節と討
取人追

ハハカハ

九

ハハ
州丸
傳信

追戻しけり
犬田小文吾の山路

小入りし小大猪の

文五兵工

荒来打殺し
荒布道節
音糸
め内か
出合此
より義
兄弟
小あ
はん

信乃



毒掃舟虫の島小文吾の
あひ石濱の城中小
引れ奸臣馬加大証
憎しを受て獄中
ふつるん日々責を
受れども更小忍多
辛も数月を送りける然
ふこへ来りし舞子乙女と
ひふ小文吾の無実の罪を知
り忍び入り危きとをくひ
出しける是るん犬士の一人
る犬塚毛乃智とて

現ハ



犬塚毛乃智

+

※智勇を兼ねたる美事なり此時間者
とあり忍び



与四郎

捕手の用じ
と毛野のいさ
かそれゆへに
八方敵と引
受く小文吾
毛野の兩人
むらがりよせる
捕手と切りあ



節道

あまの
人間
業とい

さきり
捕手の者
とあり



庄久

八州
傾轉

ツキ次第くみわつ取つみ生捕んと

ひしめきあふふ両士の
必死の勇気



道節

○あちや
突戦さすも大勢

の捕手等もさや
うるはどと進出

を地両士の辛く
由城中せのが

れいせゆり
あしえ落のひ

りりうへつ
てと

犬山
道節

ひん



八州
傾轉

川州丹
州州丹
傳傳傳

必死の難戦已み

信乃

其身もあやうかり
しが忽然と
して炎焔あがり
道節の姿ハ
消失さう
しが是
るん火道
術あて白
井の城兵
わかどろ
きしがこつ男
士の耻べきこと



毛野

あつとと秘書
と火中み投
せしとぞ
爰ふまき
庚申
山の
快
んと
と聞て大飼
現八偽一角を退
治一犬村角太郎
の素生を知りこむ
小犬士の名衆ふあふびん

莊々

小文五



十三

犬田小文吾の
 舟路小難風本出合諸々の島
 毛野小別れて船のり伊豆の

犬田小文吾ハ石濱セのガレ
 毛野小別れて船のり伊豆の
 舟路小難風本出合諸々の島
 せむぎて浪花

道小。
 北陸



親兵衛

房八

小文吾



○下り越後
 國前羽郡小
 小千谷の里と
 小旅跡も天下の形勢を
 伺ひ在り同國古志郡二十
 村小牛鬪の神事
 あるを見物せんと
 立出し小名高
 小名高
 みる

りるれバ近郷の

犬田小文吾

十六

大夫
四方志
安可辭
固窮

莊外

現八

親兵工

毛野



道
竹
郎

親兵工

毛野



大学

里見義成

信乃

小文吾

道太郎

川
州
傳



与四郎

数頭の
牛を引さ
て左に
引さ



信乃

庄々

小文吾

分る中
大なる牛あれ
ひごしりるみ小
文吾もより
角をとらて
祓が倒し
借又犬坂毛野
の父仇 逸東太
せ討んとねら
ひが 逸東太
の小田原へ使者み
赴きしよしせ

八
犬
傳



ハハハハ
 九十九
 僅傳

ハハハハ
ハハハハ
ハハハハ

ツキごとくうけ

廻り鬼神

のあらざる

如くあり

此時小文

吾莊々

加勢

つひみ逸

東本の

首を

討ち

又扇ヶ谷定正八百余人

の無と品川



けりて大餓現ハ

等の二大士

ガ

より起り

小文吾

エ次



ハハハハ
ハハハハ
ハハハハ



ツキ定正の兵乱れ大小
 定正ハ怖れゆるしきて鞭打
 ち進行と道節弓矢と
 むひ切て放すあやまこい
 定正を怨と射ぬ

されバ
 次エ





ありしが妙珍といふ
 おまよひされ里見へあざむ
 る一逆意をむこし
 たらが犬士の一人大江
 親兵衛打向ひ次郎

庄次

おと



道節

深手といひ馬より
 孝嗣小助姓
 らんとう子

素藤と生捕妙珍
打殺しつり八犬士ののこ
らび打すり
里見
召く
られ得
なるの
取あ
うひる
叔結城
の家臣



壯
人

二百
余人
三手
別れ責
来ころ
きく犬士等
敵とまろり二ヶ所
マられ今やおそいと待ひつら
水工



道
節



現八

ツギ 悪僧共先手
をみ一時
とろと押寄
るをこころ
より犬士等
起り立前後
より切
立るお思ひ
ゆよ
事なれが
悪僧ども
大ひふ
こころし



角太郎

が名おか
犬士の武勇
て死むべき
やさんぐ
切せられ
次エ

【ツキ】敗地ける又鎌倉の

合戦の矢士の切より

大勝利を得遠近を

誰あつて敵を

のち里見家

の武威をかたむ

犬士の諸國々

遊歴して

それを富山

籠めて仙人

とありける

又富山の山

神とて老

若男女

参詣あり

けるこれ里見義実公の息女伏姫ハ
住居せよ金鞠大輔の爲不夫諸共絶命せよ
とハッの玉飛上りして矢士ハッて持て此社ハ伏



もるん
伏姫の体内
姫の祭りあり



煙文

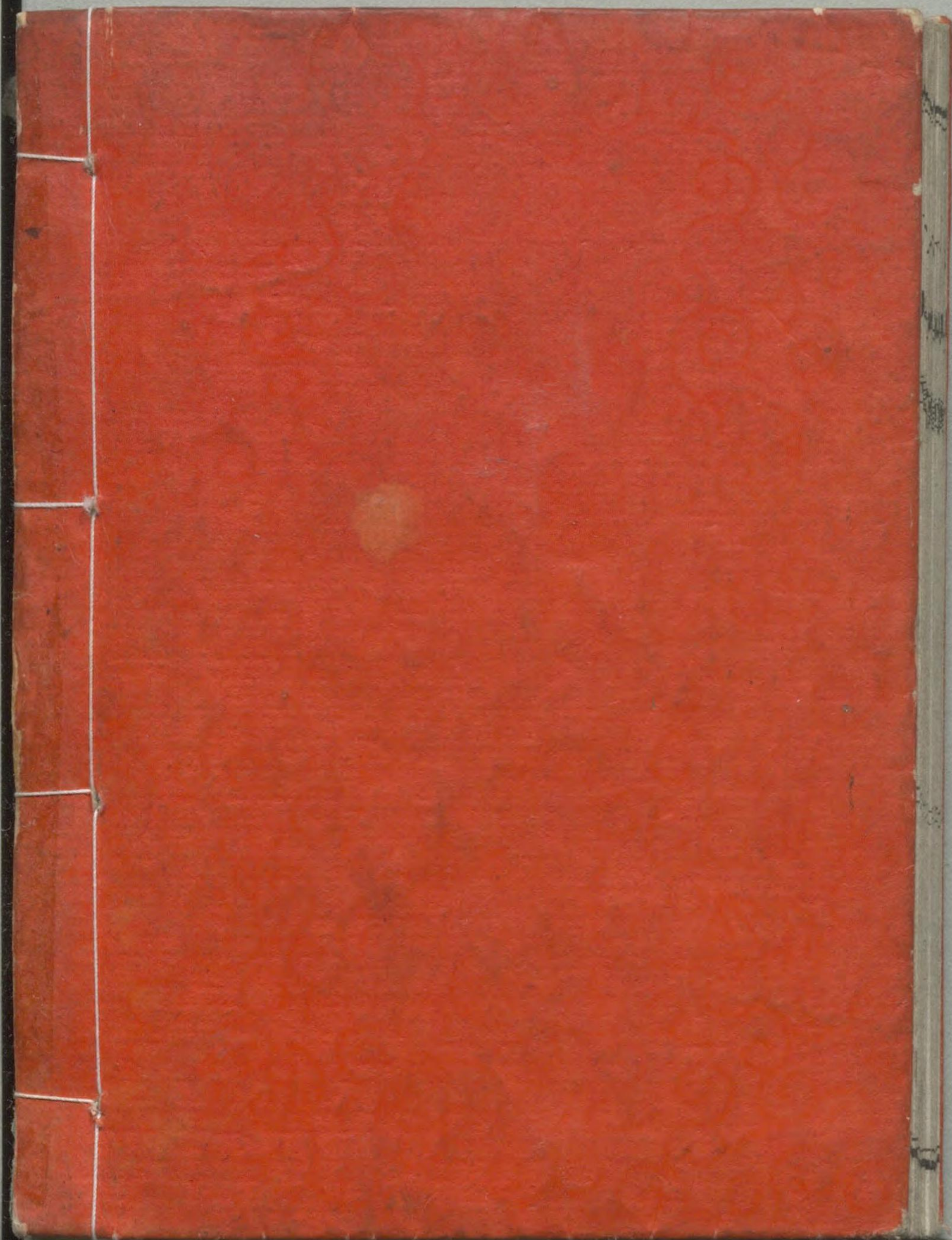


明治二十二年三月一日
浅草区壽町四十二番地

印刷者 下田惣太郎

著作兼 發行者 山本常次郎

浅草区壽町四十三番地
地渡紙問屋 隆湊堂 湊屋

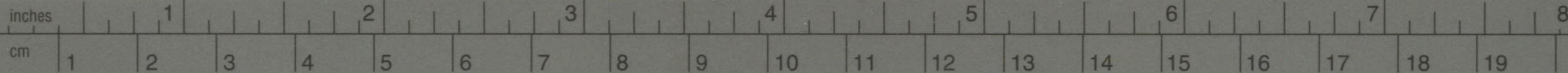
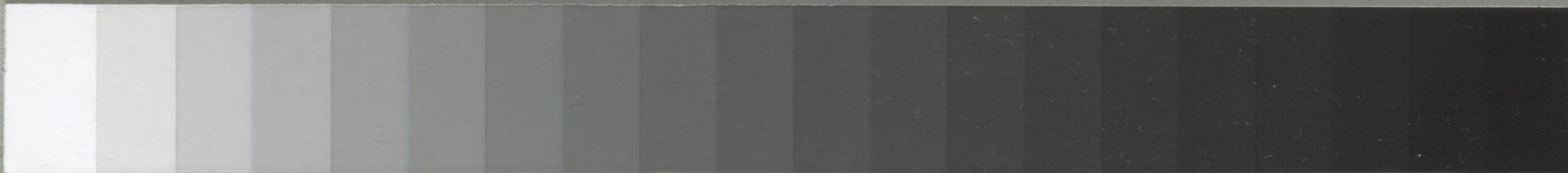


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

